HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	視覚と近代中国文学者 ： 横断する幻燈・絵画・映画［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	余, 迅
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12927号
Issue Date	2017-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/68168
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Xun_Yu_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：　余　迅

主査　教　授　　応　雄
審査委員　副査　教　授　中村　三春
副査　教　授　武田　雅哉

学位論文題名

視覚と近代中国文学者 ── 横断する幻燈・絵画・映画

・当該研究領域における本論文の研究成果

近代中国文学研究の領域では、文学における視覚の要素の存在およびそれが果たす役割をめぐって、当時の社会的文脈において、近代中国におけるモダニティの誕生と展開の問題に関連させながら史的・理論的に考察する研究が近年、主流をなしつつある。その代表格に、北米の研究者である李欧梵、レイ・チョウ、王徳威などが挙げられる。その影響のもと、中華圏や日本の当該分野においても、視覚とモダニティに関心を払う研究が多く見られるようになった。本申請論文は、おおむねそうした研究文脈の延長線上にあると見てよいが、すべてが視覚の衝撃という一言に回収されがちな研究を回避すべく、本研究は絵画的造型を意識しながら文学作品を創作する、映画的に小説を書く、あるいは小説家として映画の創作に携わるといった創作活動について具体的に考察することによって、より繊細で複雑な水準において問題提起しようとする。そのため、本論文は、視覚に関わる複数のジャンルにわたって複数の文学者・知識人をケースに取り上げ、視覚と近代中国文学の関わり合いを子細に検証している。そうした点に先行研究と異なる本研究の意気込みと独自性がまず存すると考えられる。

このようなアプローチを取っているゆえ、本論文はいくつかの事象についての考察でこれまで十分に検討されてこなかった問題点に触れることができた。葉霊鳳小説に見られる絵画的な要素についての考察や、周痩鵑が参与した独特な文芸ジャンルの「影戯小説」についての検討、劉吶鷗の映画作品『カメラを持ツ男』をめぐる考査などがそれであり、当該研究分野において興味深い見解を示しており、新たな問題提起につながる生産的な議論を行なっている。

また、本論文は文献調査に多大な努力を払っている。それは、視覚と近代中国文学の関わり合いをあくまで細部において検討するという論文のアプローチに関わる研究姿勢を示すものでもあるが、作成されたいくつかの資料リストは文献資料としての学術的価値を有すると認められる。たとえば、魯迅の鑑賞した映画の題名に関して、先行研究ではすでに触れられていたが、公開当時の題名が示されるだけで、ハリウッド作品などの原題が付されていなかった。本論文は、複数の文献資料にあたり、当時の中国語題名からその英文の原題を特定する作業を行ない、より完全な題名リストを完成し、魯迅と映画との関わりをめぐる研究のさらなる推進に貢献をなしたといえよう。幻燈会を主催するといった顔永京の幻燈活動や、周痩鵑が執筆する「影戯小説」に関する資料調査・整理も、該当事象に関する史的事実を明らかにしている。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は上述の諸点において論文の達した一定の成果を評価し、論文が博士学位論文の水準に達していることを認める。そのかたわら、審査委員会は論文に残る問題点についても指摘し

た。本課題について、複数のジャンルにわたる複数の人物・事象を具体的に探査するという本論文の研究方法には、学術的成果につながるものが確かにあったが、風景描写や場面転換、会話のリズムといった文学作品の表現の水準において、モダニティに関わる都市的・視覚的なものが、どの程度、いかに滲入しているかについても、よりいっそうの考察が望まれる。また、葉霊鳳小説における絵画的な要素といったケースで個別に考察がなされているものの、より内在的な検討は全体として十分とはいえない。

いくつかの事象に関する考察で興味深い指摘がなされているが、当該問題についてより広いスパンで、あるいはさらに掘り下げて論考を進める余地もあった。徐卓呆の手掛ける「滑稽電影」において、日本人カメラマン川谷庄平が撮影を担当していたことに言及されているが、川谷庄平に関する文献を調査することで、「滑稽電影」の実態をさらに明らかにしうる可能性もあった。劉吶鷗を取り扱う第八章では、ジガ・ヴェルトフから影響を受けたこと以外に、同じくヴェルトフの『カメラを持った男』の影響下に作られた同時代のドイツ映画『日曜日の人々』をも視野に入れつつ考察を進めることにより、より豊富な研究成果が得られたであろうことが惜しまれる。

また、審査委員会は論文中のいくつかの箇所で記述が十分に明瞭でない点についても指摘した。

審査委員会は、上記の問題点は本論文が達成した成果を根本的に損なうものではないことを認め、論文の研究課題の新規性に伴うこれらの問題点は、学位申請者がこれから本テーマの研究をさらに深めていくきっかけと原動力にもなり、新たな研究ステージにおいて改善されうるものであると考える。

以上の審査結果に基づき、本審査委員会は全員一致で余迅氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。